

## 知られざる小さきハンター、アシナガバエの世界

Tiny predatory flies - Introduction of Dolichopodidae

熊澤 辰徳 \*

Tatsunori KUMAZAWA\*

### 知られざる「ハエ」の世界

「ハエ」ときいてどんなイメージが浮かぶでしょうか。汚い場所にブンブン飛び回って気持ち悪い、台所や風呂場回りにいるコバエを退治したい…といったイメージをお持ちのかたも多いのではないのでしょうか。人家近くに現れるハエの仲間に対して、いい印象を持つ人はあまり多くないでしょう。

生物学的には、ハエやアブ、カの仲間は、すべてまとめてハエ目(双翅目、Diptera)という大きなグループに分類されています。ハエ目の種は世界に約120,000種、日本では知られているだけで7,500種以上の種がいます。しかし、害虫になる一部のハエ目を除いて研究は遅れており、毎年多くの新種が報告されているほか、膨大な数の未知種がいるとされています。

本記事で紹介するアシナガバエも、研究が進んでいない知られざるハエ目の一つです。

### 脚の長いアブ、アシナガバエ

アシナガバエは、アシナガバエ科 Dolichopodidae に属する種の総称で、名前のおお脚が非常に長い種を多く含む一群です。とはいっても、分類学的にはアブに近い仲間です。実はハエ目では、こうした名前の不一致が時々見られ、アブ類に分類されるアシナガバエやオドリバエ、ハエ類に分類されるハナアブやアタマアブ、さらにはカやガガンボに近い仲間なのに、見た目のせいかハエの名がつくグループ(チョウバエ、キノコバエ、ケバエなど)などもあります。

さて、アシナガバエは草むらや湿った土がある場



ホソアシナガバエ亜科の仲間 Sciopodinae sp. すらっとした体に透明感のある体色で、ハエのイメージに合わないと感じられるかもしれません。

所、溪流や海岸、樹木の幹など様々な環境にいます。体長は1mm～1cm程度ですが、成虫・幼虫ともに、主に微小な昆虫やダニ等を餌とする、れっきとしたハンターです。

### 身近にもいる小さな宝石

アシナガバエは小さくて目立たない上、近づくと素早く逃げられやすい昆虫です。しかし、実は意外に身近な昆虫で、われわれの身の回りでも見つけることができます。

アシナガバエは草むらや湿った土がある場所、溪流や海岸、樹木の幹など、様々な環境に多様な種がいます。その中には、公園や道路の植え込み、街路樹などで見られる種もいます。

アシナガバエは、その脚の長さのほかに、多くの種で美しい体色をもつことが特徴です。光沢のある

\* 大阪市立自然史博物館 外来研究員

金緑色や透き通るような黄色の種が知られており、葉の上などにいると小粒な体でも目を惹きます。

### 未知なるアシナガバエを探せ

アシナガバエの種数は極めて多く、世界で 7600 種を越える種が知られています (Grichanov, 2014)。

日本からはこれまでに 100 種程度が知られていますが (柘永 2014)、未知種を含めると 500 種程度が生息していると推測されています。つまり、まだ数百種の未知なるアシナガバエが日本にいます。どこかでアシナガバエの仲間を見つけて調べても、種の名前までわかることは少ないのが現状です。

そこで今回は、市街地やその近郊など、身近な場所で見つけやすいアシナガバエを中心に、簡単な解説と大まかな見分けかたを紹介します。

### アシナガバエの特徴

アシナガバエの特徴として、次のような点が挙げられます。なお、以下の特徴はあくまで区別しやすい点のみを取り上げており、以下に当てはまるからといってアシナガバエだと断定はできません。また、以下と異なる特徴をもつアシナガバエもいますので、あくまで参考程度にしてください。

体色は金緑色、暗色、黄色、銀色など。  
 金属光沢をもつものが多い。  
 翅の脈が比較的単純 (右図)  
 脚が体長の割に長い



コヒゲナガクボヒゲアシナガバエ *Syntormon violovitshi* の翅

アシナガバエと間違えやすいのは、これらの特徴に比較的当てはまり、生息環境も似た次のような仲間です。

#### ■オドリバエ類

アシナガバエと分類学的に近縁なオドリバエ科 Empididae とセダカバエ科 Hybotidae は、アシナガバエと同じような環境にいることも



ハイロケミャクシブキバエ *Trichoclinocera fuscipennis*

多く、姿もよく似ているものがあります。翅脈の特徴などが異なり区別できます。

#### ■キノコバエ類

脚が長い種が多く、特にナミキノコバエ科 Mycetophilidae の一部は見た目の印象が似ています。触角がアシナガバエより長く、節に分かれていることなどで見分けられます。なお、ハエという名前が付きますが、分類学的にはカに近い仲間です。



ナミキノコバエの仲間 *Boletina nigricans*

#### ■ミギワバエ類

アシナガバエと同様の湿地によく見られるハエで、肉眼では小型のアシナガバエと区別しにくいですが、アシナガバエにない触角の枝わかれがあるなど、細かな特徴が違うので判別できます。



ヒラウキフネミギワバエ *Setacera breviventris*

#### ■ヤリバエ類

春先に河川敷などに現れるハエで、全体的な雰囲気ややアシナガバエに似ているため、初めは混同するかもしれません。しかし、翅先がとがる点など異なる部分も多いため、慣れてくれば見間違えることはなくなるでしょう。



クモスケヤリバエ *Lonchoptera stackelbergi*

### 身近なアシナガバエ

次のページから、市街地や低地でも見つけやすい種を中心に解説しています。なお各属の種数については、Grichanov (2014) および柘永 (2014) を参考にしています。



## 身近で見られるアシナガバエたち

公園・草地

### マダラホソアシナガバエ (マダラアシナガバエ)

*Condylostylus nebulosus* (Matsumura, 1916)

林や茂み、植え込み、庭先などで、もっとも普通に見られるアシナガバエの仲間です。葉の上にいることが多く、金緑色の体に模様のある翅という特徴的な体つきから、春から夏にかけて葉の上をよく見ていたら見つかることが多くあります。

ただし脚や交尾器の形に違いがある近似種が2,3種いるため、確実にこの種だと言うためにはそうした特徴を確かめる必要があります。



マダラホソアシナガバエ *Condylostylus nebulosus* 世界には250種を超える仲間がいます。



(上) ウデゲヒメホソアシナガバエ *Amblypsilopus pilosus* のオス。ヒメホソアシナガバエの仲間は世界中で300種以上が知られており、日本にも多数の未記録種があるとされています。

(右) オスは前脚の第1・第2ふ節に刺毛の列があり、これが和名の由来になっています。この刺毛を持たない *A. janatus* という近似種が日本にいとされますが、詳細は不明。なおメスはこの特徴を持たないため、他種との区別が困難。



### ウデゲヒメホソアシナガバエ

*Amblypsilopus pilosus* (Negrobov, 1977)

マダラホソアシナガバエと同じく、葉の上をせわしなく歩いていることが多い種で、比較的よく見られます。

体色が金緑色で、オスの前脚に短い毛が密集するところがあれば、この種である可能性があります。ただし、この種に似た種は日本でも多数確認されており、研究途上のためその詳細はほとんどわかっていません。そのため、写真から安易にこの種だと断定することは通常は出来ません。

ちなみに、古くからの図鑑にアシナガキンバエ *Dolichopus nitidus* という種がアシナガバエ科の代表としてよく掲載されていたためか、ブログなどでこの種やその近縁種が誤ってアシナガキンバエとして紹介されている例が多数あります。ホームページなどでアシナガキンバエと言う名前で紹介されている写真には注意が必要です。



アシナガキンバエ *Dolichopus nitidus* の標本。体色や体つきがまるで違います。翅にある雷マークのような脈が特徴。ただし、アシナガキンバエに似た種も日本に数十種は確実におり、この翅脈ならアシナガキンバエだと即断はできません。

## アマネアシナガバエの仲間

*Gymnopternus* sp.

春先から秋口ごろまで、湿った土の上などで非常によく見られます。公園などでも、雨上がりの濡れた地面などをよく見ていると発見できるでしょう。おそらく幼虫が湿った土で育つと思われていますが、観察例があまりないので詳細は不明です。

そもそもこの仲間は、身近に多数見られるにも関わらず、日本どころか世界に何種いるかもハッキリわかっていません。日本からは名前未確定の種がいくつも見つっていますが、その研究はほとんど進んでいません。よく似た見た目のクチヒゲアシナガバエ属 *Hercostomus* という別のグループの種もあり、この写真に似たアシナガバエを見つけても、確実な名前をつけづらいのが現状です。



アマネアシナガバエの仲間 *Gymnopternus* sp. 体長は3-4mmほどで、日陰の湿った土の上などでよく見られますが、交尾器の形や脚の色が異なる種も多く種名は確定できません。全世界では130種程度が知られますが、この仲間の分類は世界的に研究が遅れています。

## チビアシナガバエの仲間

*Chrysotus* sp.

草むらや湿った地面の近くなどで普通に見られる、小型のアシナガバエの仲間です。黒っぽい体色で他の種よりは目立ちにくいですが、葉の上などで他の小昆虫を食べている様子などが観察できます。

アマネアシナガバエと同様に、研究がまだ進んでおらず、種名まで確実に調べるのは困難です。



チビアシナガバエの仲間 *Chrysotus* sp. 体長は2mmほどで、葉の上などでよく見られます。時には頭を葉にぶつけながら獲物に襲い掛かって捕食している姿が見られます。世界に400種以上の仲間があり、多様性が高いグループです。

## クボヒゲアシナガバエの仲間

*Syntormon* sp.

クボヒゲアシナガバエの仲間はオスの触角に指上の窪んだ箇所があり、これが和名の由来になっています。世界で100種以上、日本にはこれまでに6種が知られ、いくつかの種は市街地でも見られます。



コヒゲナガクボヒゲアシナガバエ *Syntormon violovitshi* オス頭部

成虫の活動時期は詳しくわかっていませんが、他のアシナガバエが少なくなる秋にも比較的よく見られ、ネプトクボヒゲアシナガバエ *Syntormon flexibilis* のように、成虫で越冬していると考えられている種もいます。



クボヒゲアシナガバエの仲間 *Syntormon* sp. 人家の壁に止まっていた個体。比較のおとなしく観察しやすいです。



## 樹木

### キマモリアシナガバエの仲間

*Medetera* sp.

春から夏にかけて、木や岩肌、コンクリートなどを眺めていると、じっと止まっているのを見つけられます。体長2mm



ほどの小型のアシナガバエで、体色は暗色であるためあまり目立ちません。同じ場所にこだわる習性があるのか、逃げてしまってもまた同じような所に戻ってくることもよくあります。

コンクリートに止まったキマモリアシナガバエの仲間 *Medetera* sp. 頭を上げて止まったまま獲物を待っています。

世界で 328 種、日本には 15 種ほどが知られます。

### キイロアシナガバエの仲間

*Neurigona* sp

森林で木の樹皮を見ると、黄色い体色のキイロアシナガバエの仲間を見かけることがあります。ホソアシナガバエの仲間と並んで特に脚が長く、体色が淡黄色で美しい仲間です。

世界で 150 種以上があり、日本ではこれまでに 4 種が知られますが、まだ複数の未記録種がいると見込まれています。



キイロアシナガバエの仲間 *Neurigona* sp. フラッシュを使って撮影すると、光が当たった瞬間に飛び跳ねてしまい、何も写っていない写真を量産することになります。

## 水辺・河川・海岸

### ミギワアシナガバエ

*Thinophilus longipilus* Negrobov, 1971

河川や田んぼなどにいる水辺のアシナガバエです。成虫は砂や泥の上を歩き、ユスリカの幼虫などを引きずり出して食べます。



双翅目の幼虫を食べるミギワアシナガバエ *Thinophilus longipilus*

夏には各地の川などで比較的普通に見られますが、近年初めて正式に記録され、種名が明らかになりました(田悟, 2010; Negrobov et al., 2014)。なお他に、よく似たススバネミギワアシナガバエ *Thinophilus nigripennis* という種も日本におり、オスの中脚の剛毛や交尾器の形で区別できます。世界には約 120 種の仲間がいます。

### カワラホソアシナガバエ

*Sciapus nervosus* (Lehmann, 1822)

体長 1cm 近くになる、比較的大型のアシナガバエです。春先に現れ、河川近くの草むらなどをふわふわと飛んでいます。オスの交尾器が長く伸びる点などで比較的区別しやすい種



カワラホソアシナガバエ *Sciapus nervosus* (熊澤・吉田 2014)

です。他にも近縁な種が日本にいますが、研究は進んでいません。

### ホソマクナミイソアシナガバエ

*Conchopus rectus* Takagi, 1965

海岸の波打ち際には、イソアシナガバエの仲間 (*Conchopus*, *Acymatopus*, *Thambemyia* など複数属) が見られることがあります。本種はそのなかでも比較的よく見られる種です。ナミイソアシナガバエの仲間は日本に 17 種が知られており、翅脈が極端に

曲がった種や、口が長く伸びた種などがあります。日本産の種は三枝 (2008) で詳しく紹介されています。



ホソミャクナミイ  
ソアシナガバエ  
*Conchopus rectus*  
(熊澤・吉田 2014)

ナミイソアシナガバエの仲間の分布域は、日本を含むアジアに集中していますが、日本に広く分布するキタナミイソアシナガバエ *C. borealis* が近年北米や南米の沿岸で発見され、船の往来などによって日本から移入したと考えられています (Brooks and Cumming, 2009)。

## おわりに

ここで取り上げた種は、日本にいる種のごく一部に過ぎません。これらの種以外にも、近年になって日本に生息していることが明らかになった種や、新種として記載された種が次々出てきています。しかし、まだまだ多数の未知なるアシナガバエが日本に生息しているのは確実です。

身近な場所でアシナガバエを見つけることがあれば、ぜひ立ち止まって目を留めてみてください。ひょっとすると、誰も発見していない新種の可能性だって十分にあります。

## 参考文献

- Brooks, S.E. and Cumming, J.M. 2009. First record of a Japanese marine shore dolichopodid fly, *Thambemyia* (= *Conchopus*) *borealis* (Takagi), from the Neotropical Region (Diptera: Dolichopodidae). *Zootaxa* 2112: 65-67.
- Grichanov, I. Ya. 2014. Alphabetic list of generic and specific names of predatory flies of the epifamily Dolichopodoidae (Diptera). *Plant Protection News, Suppl.*, No. 14. St.Petersburg, VIZR, 544 p.
- 熊澤 辰徳・吉田 浩史 (2014) 兵庫県におけるアシナガバエ科の採集記録. はなあぶ 38 25-30.
- Negrobov, O. P., Sato, M., Kumazawa, T. and Tago, T. 2013. On the species *Tachytrechus rubzovi* Negrobov, 1976 (Dolichopodidae, Diptera) from the

Far East of Russia and Japan. *International Journal of Dipterological Research* 24(1) 13-15.

榎永 一宏 (2005) アシナガバエ科 1221-1228. In: 川合禎次、谷田一三 (共編) 『日本産水生昆虫一科・属・種への検索』東海大学出版会

榎永 一宏 (2014) アシナガバエ科 pp.439-447 In: 中村 剛之, 三枝 豊平, 諏訪 正明 (編) 日本昆虫目録 第8巻 双翅目 (第1部 長角亜目 - 短角亜目 無額囊節) pp.539

三枝 豊平 (2008). アシナガバエ科. pp.434-449. In 平嶋 義宏・森本 桂 (監修) 新訂 原色昆虫大圖鑑 第III巻. 北隆館. pp. 654 176pls.

田悟 敏弘 (2010) 関東地方にて採集したアシナガバエ科の記録. はなあぶ 30(2) 1-96.